

第3章 大阪港の景観特性の整理事例

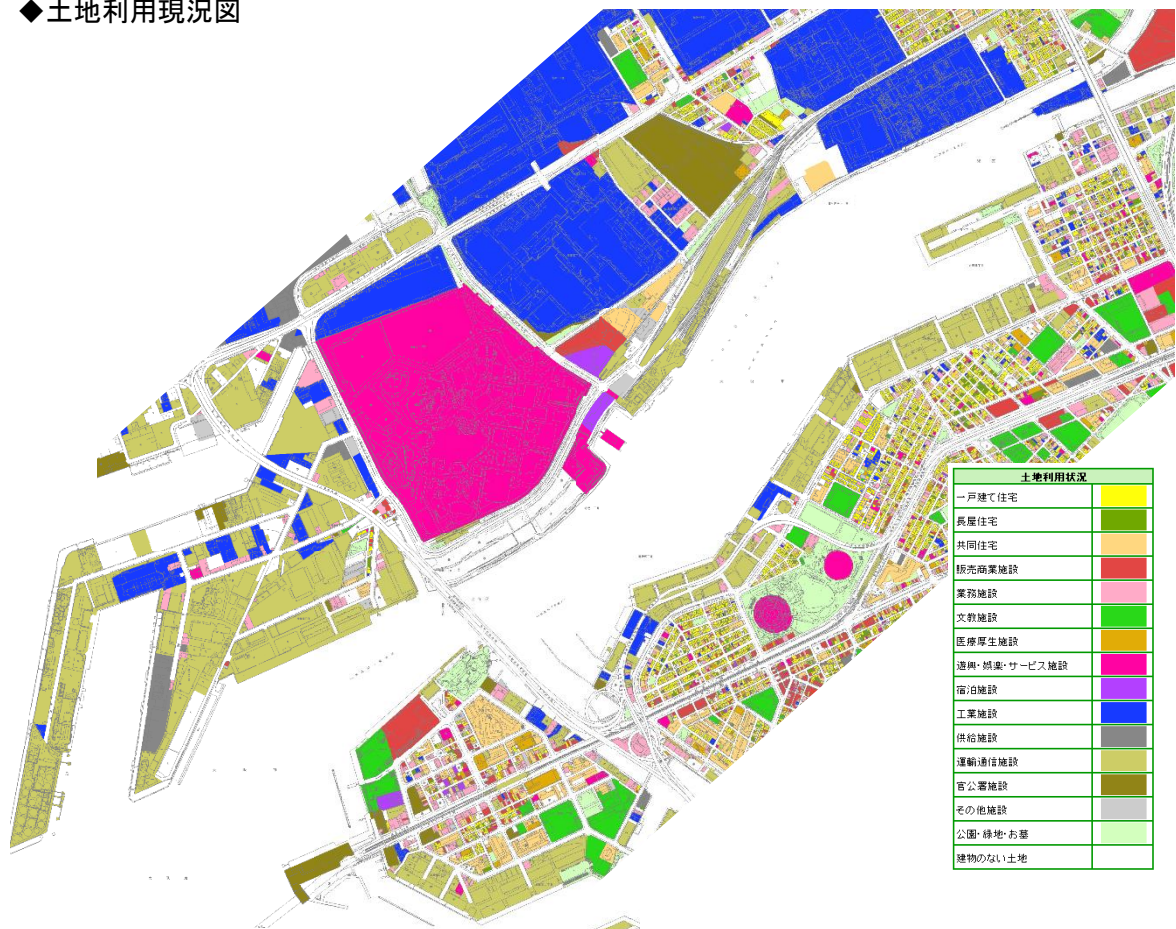
景観形成に際しては、建築物の計画時などに、前提となる敷地の特性や周辺景観を読み解き、景観計画の方針も踏まえながら、景観配慮の工夫を考えていく必要があります。

広範囲に及ぶ大阪港の土地利用や景観は、地域によって多様であり、周辺景観も異なります。本章では、敷地特性や周辺景観を読み解く事例として、河川沿いに集客施設や物流施設が集積し、市民の多くが目にする機会がある安治川地区について特徴等を整理しています。

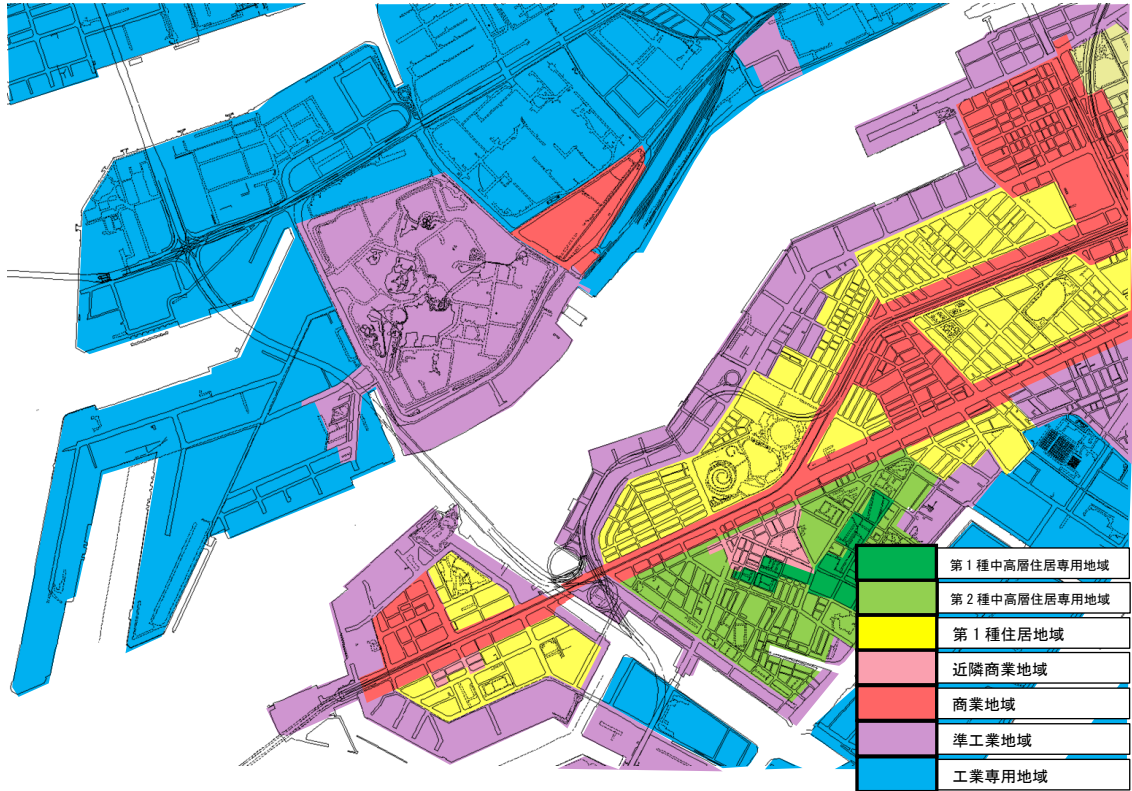
1 安治川地区

安治川周辺は、近世以降、諸国物産の集積地であった大阪の水運の中心として反映し、河川港のとしての大阪港の起源となる地区です。現在は、上流では市街化が進んでいますが、安治川水門より下流では、河川沿いに物流倉庫や工場等のまちなみや、天保山ハーバービレッジやUSJ周辺の賑わいのある景観などが形成されています。

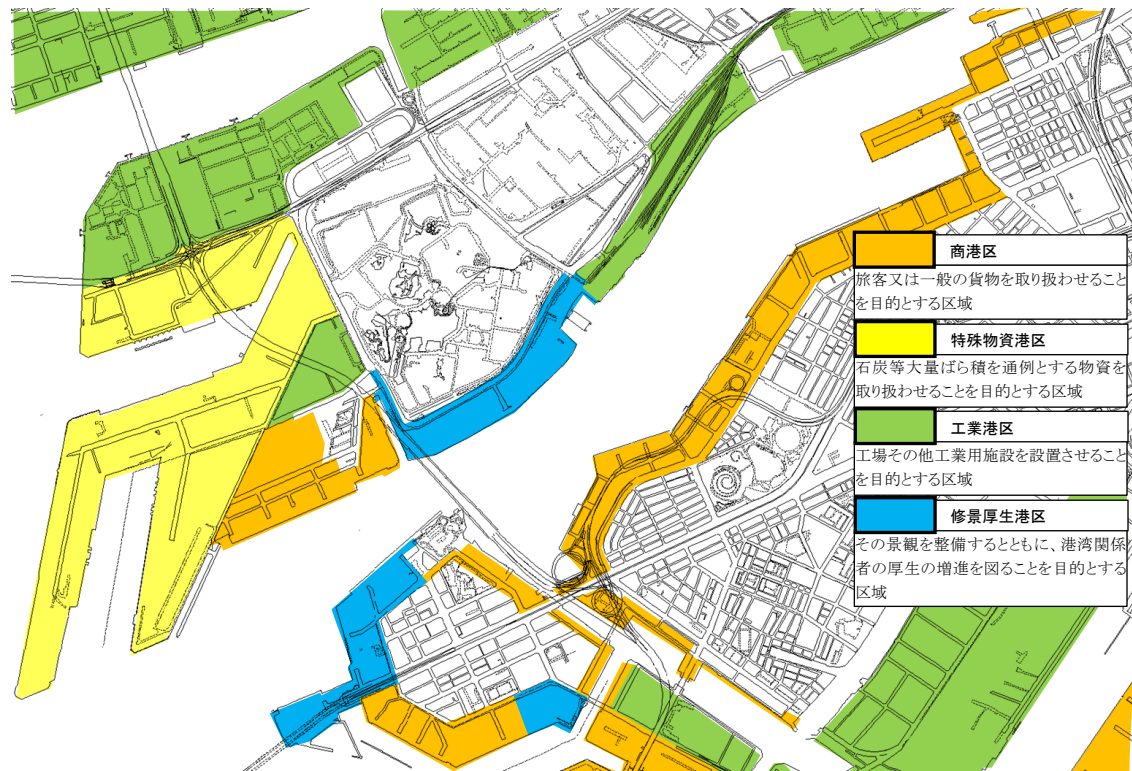
◆土地利用現況図



◆都市計画に基づく用途地域



◆港湾法に基づく臨港地区の分区



※用途地域、分区については、概ねの区域を示したもので、正確性を欠きます。